

札幌市博物館活動センター 情報誌 ミューズ・レター

Muse Letter

No.83
July 2025



トラキチラン(学名*Epipogium aphyllum*)

トラキチランは全体の草丈が20~30cm、花の直径は約2cmと小さなランです。ユーラシア大陸北部から東アジアに分布します。北海道では確認が少なく、札幌では2023年に市民によって生育が確かめられました。トラキチランは海外で先に見つかり研究されて学名(世界共通の名前)がついていました。その後、日本でも見つかると、和名は学名の意味とは関係なく、日本で初めてこのランを発見した人物「神山虎吉」にちなんで名づけられました。

撮影:佐藤ひろみ氏

バックヤードと、その先へ

文/学芸員 山崎 真実

札幌市博物館活動センターには一般の来館者がいつもは入れない特別なスペースがあります。その核となる収蔵庫には、マッコウクジラの頭骨^{とうこつ}のような大きなものから数ミリメートルの豊平川の水生物まで、実物資料約85,000点が収蔵されています(2025年3月現在)。収蔵庫に入ると背の高い標本棚に囲まれ、どこに誰がいるか分からなくなり、まるで巨大迷路のようです。時折実施するスペシャル企画「バックヤード・ツアー」は普段は見られない場所だけに好評です。ツアーでは学芸員がガイドを行い、標本が収蔵庫に入る前の段階、つまり採集したモノに長期保存するための処置をして「標本にする」プロセスについても紹介しています。例えば、化石クリーニングを行う部屋や押し葉標本を乾燥させる大きな機械がある部屋は、普段は見えない博物館や学芸員の働き(機能、役割)が見えてくる場所でもあります。

一方、いつも見学できる当センター収蔵展示室には、たくさんの収蔵標本の中から厳選して展示しています。なぜ選んで展示するかというと、一般的に、展示はただ並べるだけではなく、それぞれの博物館や展示のテーマに沿ったストーリーを伝える目的があるからです。もちろん、普段は収蔵庫で保存している標本もしまっておくだけではなく、企画展等でときどき展示します。また、常設の展示をリニューアルすることがあり、当センターでも2025年3月に学芸員の手作業でできる範囲でプチ・リニューアルをしました。

私の担当では「食う・食われる 動物と植物のかかわり合い」をテーマに追加しましたが、何をどう展示するかについては毎回頭を悩ませます。今回は、身近な自然、札幌地域で話題になってい

ること、これまで紹介する機会を作れなかった調査成果も紹介したい!……と様々なキーワードや伝えたいことが脳内をグルグル回っていました。そんな時、通称「エビフライ」(写真1)をスタッフが拾ってきたことがきっかけで発想が進みました。ここ数年で札幌市内でも遭遇することが増えているエゾシカに絡めて、「藻岩山・円山における動物生息状況調査」(2005～2007年度、当センター実施)で集めたエゾシカの食べ痕が残ったササや木の枝を展示しました。隣には、植物の収蔵庫から押し葉標本を展示して、食べられる前の葉の形も分かるようにしました(写真2)。



【写真1】 通称エビフライ(右)。リスやネズミの仲間が長いまつぼっくり(左)を食べた後に残った形がエビフライに似ている。自然ガイドの鉄板ネタ。



【写真2】 でき上がった展示

収蔵庫にある標本を研究して、その価値を目覚めさせ磨いていくのは、その博物館にいるスタッフだけではありません。外部から研究者や個人研究家が来て調査を行うこともあり、2024年度末には二人の研究者から論文が届きました。一人はチョウの形態を研究する個人研究家、もう一人は水生昆虫の分類を再検討した大学院生(当時)です。水生昆虫の論文のタイトルには Sapporo City (訳:札幌市)と入っていて、純粋にうれしくなりました。

このように収蔵庫の中身は、実は日々活用されて新しいことが付け足されています。バックヤード・ツアーで見て感じて思った事から、未来の博物館を想像してみるのもよいと思います。

※調査研究や学校等の研修の目的で収蔵庫の標本を利用ご希望の方は当センターまでご連絡・ご相談ください。

調査報告書

「藻岩山・円山における動物生息状況調査」

(2005～2007年度、当センター実施)

「豊平川水系水生底生生物調査」

(2002～2007年度、当センター実施)



調査報告書



[写真3] チョウ(左)、水生昆虫(右)の標本の収蔵の様子



バックヤード・ツアーのおしらせ

カルチャーナイト<2025年7月25日(金)>にて、バックヤード・ツアーを行います。

※参加人数には限りがあります。

詳細はホームページや館内掲示をご覧ください。



イベント情報

どこでもステキな発見ができるアイテム「ハンディ顕微鏡」をご紹介します。

ためしに、展示していた木の円盤の表面を見てみました(写真1)。肉眼でもかろうじて見える丸い穴は、春の時期、一気に水を吸い上げるためにできる細胞です(道管と呼びます。北海道にもあるハリギリという木の大きな道管は直径0.2mmほど)。実際に見ていると模様がとてもきれいで、飽きません！もっとはつきり細かく見たいときは、木片をかつおぶしのように、もっともつと薄くスライスし、色素で染めて、大きな顕微鏡で観察します(写真2)。

持ち運びができて、気になつたら何を見てもいいところが魅力です。花粉、石のかけら、本

ホット
コラム

展示室につき

ハンディ顕微鏡で
小さな世界を探ろう！



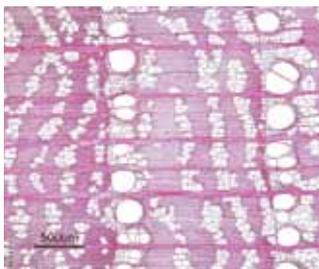
ハンディ顕微鏡

○月×日 展示解説員 宮越 結子



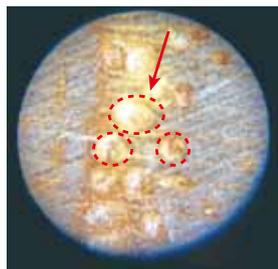
「これは何だろう?」「どうなっているのだろう?」と思つたらぜひ、ハンディ顕微鏡で観察してみてください(なければ虫メガネでも!)。

細かく見ると...



[写真2] ハリギリの横断面

出典/森林総合研究所日本産木材データベース



[写真1] ハリギリの横断面
丸く見えるのが道管

コレクション クエスト

ふだん公開していない
収蔵物を紹介します。
さあ、標本の世界を冒険だ!

生き物に名前
(学名)をつけると
き、基準になる標
本を決めるルール
があります。基準
になる標本を“タ

イプ標本”といいます。このタイプ標本が学術的にもっとも
価値が高い標本です。写真は、ここ10年で新種として発表し
た北海道のヒゲクジラのタイプ標本のレプリカです。とって
も貴重。左は沼田町のヌマタナガスクジラの耳骨で日本産
で初めて名前のついたナガスクジラ類の化石です。右は大
樹町のタイキケトウスの頭で、北海道で唯一名前のついた
イサナケタス類です。

文/学芸員 田中 嘉寛



タイプ標本のレプリカ
左:ヌマタナガスクジラ 右:タイキケトウス

File No.19
ミュージアムだって
バズりたい!

SMAC活動レポート

当センターで行われる、市民の
自主的活動や、学校との連携など、
さまざまな活動を紹介します。

博物館活動センターは、様々な方法で企画展
やイベントを宣伝しています。効果が高いのは
「広報さっぽろ」と新聞への掲載です。デジタル
全盛の世の中ですが、これまで通りの紙媒体の
強さを感じます。

一方、ホームページでの情報発信にも力を入
れています。「展示室につきWeb版」では頻繁に
センターの日常を発信しているほか、「おうち
ミュージアム」では様々なオリジナルコンテンツ
を取り揃えており、意外なきっかけでアクセス
数が激増することもあります。

有名インフルエンサーがお忍びで来館して、当
センターが世界中で大バズり……。ということ

になるかもしれませんので、これからも地道に
情報発信や広報を続けていきます。



写真:テレビ局の取材を受けることもあります。



交通アクセス

- 地下鉄南北線「澄川駅」北出口から徒歩約10分
- 地下鉄南北線「南平岸駅」東出口から徒歩約14分

札幌市博物館活動センター information

入館料:無料
開館日:火曜～土曜 開館時間:10時～17時
休館日:日曜・月曜、祝日、年末年始(12月29日～1月3日)



ホームページアクセス
二次元コード



さっぽろ市
02-D05-25-1398
R7-2-1006

発行 札幌市博物館活動センター

〒062-0935 札幌市豊平区平岸5条15丁目1-6 Tel: 011-374-5002 Fax: 011-374-5014
Email: museum@city.sapporo.jp ホームページ: <https://www.city.sapporo.jp/museum/>



ミュージス・レターは、植物油インキおよび、環境省が定める「グリーン購入法」の適合紙を使用しています。